



障害者の商品知って

さいたま市オンラインストア

「コロナに負けルナ」

さいたま市内の障害者施設で作る食品や雑貨などの商品を取扱うオンラインストア「サデコMONO」が10日、オープンする。同市と公益社団法人「埼玉デザイン協議会(略称SADDECO、川口市)が、施設の商品をもっとの人に知ってもらうとともに、新型コロナウイルスの影響による売り上げの減少に歯止めをかけて、障害者を支援しよう」と初めて開設する。(杉野孝)

市障害者総合支援センターによると、コーヒーなど食品のほかに、本革カード参加するのは、大宮ゆめの園、ゆづの樹、ケースなどの小物、スタンドグラスの小物、埼玉福祉事業協会、クオ・ヴァ・ディス、物入れ、苔玉など。定期的にコラボ商品すてあーす、ぱらだいすかふえ、春里どやエコ商品などの特集を実施する。んぐりの家、ふくふく、アトリエ・モモ同センターは昨年7〜8月、市内の障害者施設などにアンケートを実施。回答の9事業所。今後、参加する事業所を増やしていくという。販売する商品は、52施設のうち7〜8割が、コロナ禍で前年の売り上げが減少したと答えた。イロのシェフやデザイナー、職人の指導を年より売上げが減少したと答えた。イロのシェフやデザイナー、職人の指導を受けながら製作している。パンやお菓子、ベントの中止が相次ぎ、販売機会の減少



「ねこばさみ」は6〜7工程の作業を分担して製作している
—8日午後、さいたま市見沼区の春里どんぐりの家



「サデコMONOがたり」で販売する9事業所の商品
(さいたま市提供)

が影響したという。同センターと福祉施設などの支援を続けているSADDECOが、売り上げ減を懸念しながら、「障害者施設が自信を持って提供している商品をもっとの人に知ってほしい」とオンラインストアの開設を検討していた。SADDECOの担当者は「障害者の商品だから購入してほしいのではなく、素晴らしい技術を持っていて、良い物を作っていることを知ってほしい。他にない商品をオンライン販売することで、工賃が上がり、障害者の支援につながっていく」と期待していた。「埼玉聴覚障害者福祉会 春里どんぐりの家」(見沼区小深作、金田友美所長)では、前足でメモやペンを挟む「ねこばさみ」、薄く切った天然木を編んで作る「インテリアアトリエ」などを出品する。ねこばさみは人気商品だったが、コロナ禍で売り上げは前年比で4分の1に激減した。支援員の三浦衣里子さん(44)は一人一人が得意な分野で仕事をして、一つの商品を作り上げている。多くの人に見ていただき、購入してほしいと話した。この日は7人が、ねこばさみの製作に携わっていた。顔とひげの部分を縫っていた女性(62)は、三浦さんとの手話を通した取材で、「糸の色も考えながら作っている。大変な作業ですが、疲れるけれど、少しずつ頑張っている。私だけでなく仲間と一緒に助け合いながら作り、完成したときはほっとした気持ちになる」と応えていた。